

戎大祭

毎年 11 月 18 日から 20 日まで、地元住民も旅行者も幸運を祈願して、広島市の中心部に大勢が集まります。これは普通の街の夜遊びとは違います。戎大祭と言って、楽天的な福の神である“戎”、漁師さんや商売に献呈されるお祭りです。広島市の三大祭りの 1 つで、戎通りの屋根のある商店街にある戎神社が祝祭の中心となります。アーケードは紙の吹き流しや戎のシンボルである幸運の魚の模型で飾られ、隣接した中央通りには食べ物の露店のやゲーム、太鼓や神楽（神社の儀式的な踊り）演奏の舞台が並びます。

お祭りに来た人たちは、富と繁栄の神さまのご利益を願って祈祷するため、戎神社で列を作ります。神社の前には大きな木の樽が置かれ、祈祷の番を待つ人たちはそこにお金を投げ入れます。賽銭は通常少額の小額ですが、時には大きな金額のお札も樽に投げ入れられます。神社の傍には、戎さんの顔や戎さんが抱える魚、その他縁起の良いシンボルで飾られたカラフルな熊手の形のお守り売る露店が何列も並びます。竹製の熊手はミニチュアから実寸サイズまでいろいろあり、これで戎さんがもたらす幸運を“掻き集める”ことができると考えられています。

おそらくはその気前の良さで、戎さんは日本の幸運の神さまの中でも一番人気があり、戎大祭には毎年約 300,000 人が集まります。このお祭りは 400 年以上も中断されることなく開催されてきました。1945 年に戎神社は広島原爆により破壊されましたが、地元住民が急いで仮の神社を建てて、お祭りはいつも通り行われました。